



はなみずき

学校教育目標
「なぜだろう」
「これでよいのか」
「さあやるぞ」

楽しいGWにしよう！

校長 鈴木克彦

新学期がスタートして1カ月が立ちましたが、子供たちは、新しいクラス、友達、先生、勉強にも慣れてきたところだと思います。ゴールデンウィーク（GW）前半が終わりましたが、2日（土）から5連休（GW）となります。学校生活に慣れてきたところでの連休となります。

4月29日（水）は「昭和の日」、5月4日（月）は「みどりの日」、5日（火）は「こどもの日」、6日（水）は「休日（祝日法第3条3項による休日）」「国民の祝日」でお休みになります。（「国民の祝日」は、年間16日あり、祝日それぞれに、色々な意味や思いが込められています。）

そこで、5月5日の「こどもの日」についてお話をします。

もともと、5月5日は、「端午の節句」といって、男の子の成長をお祝いする日でしたが、1943年に、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに母親に感謝する日」として、「こどもの日」というようになりました。

「こどもの日」には、「こいのぼり」を飾ります。「鯉」というお魚は、強くて流れが速くて強い川でも元気に泳ぎ、滝をものぼってしまう魚なので、たくましい鯉のように、子どもたちが元気に大きくなることを願う意味が込められています。

「かぶと」を飾る家もあります。「かぶと」は昔、体を守るために使われていたので、子どもの身を守って元気に大きく育つようにという意味が込められています。

また、「柏もち」を食べます。柏の葉でおもちを包んだものが「柏もち」で、柏の葉は、新しい芽が出るまで落ちない、というところから、「子孫繁栄」の縁起を担ぐとされてきました。

そして、「しょうぶ湯」にも入ります。ずっと昔、「端午の節句」では、こどもの日には菖蒲の葉を入れたお湯につかるといいと考えられていて、菖蒲の葉っぱは香りが強いので、病気や悪いものを追い払ってくれるとされていました。

子どもたちが元気に生活し、立派に成長していけるように、様々な願いが込められ、意味のあるものとして引き継がれてきました。

3月3日の「ひな祭り」は、女の子をお祝いする日？5月5日は、男の子をお祝いする日？と思っている人がいるかもしれませんが、5月5日は、「こどもの日」といって、子どもたちをお祝いする日です。今年の5月5日は、なんとなく過ごすのではなく、「こいのぼり」や「かぶと（かざり）」「柏もち」「しょうぶ湯」など、それぞれの意味を考えながら楽しみ、ゆっくりと過ごせるといいなと思います。

そして、GW明けの7日（木）から、のんびりと過ごした連休から気持ちを切り替えて、5月を過ごしていきましょう。